



立て心よ 行け私よ

No. 9

【問題解決力】 【他者関係力】 【自己更新力】

文責:中村 文成

第2回学校評価アンケートの結果より

11月に、生徒のみなさんに回答してもらった、学校評価アンケートの集計結果をお知らせします。

前回同様に、アンケートで質問をした全22項目で肯定的評価(A:そう思う B:どちらかといえばそう思う)の割合が高くなりました。アンケートを行った項目全体をあわせると、肯定的評価は平均93.5%となり、7月の第1回アンケートよりも1.2%上がっています。墨坂中学校の生徒のみなさんの多くが、充実した学校生活を送っている、学校生活に満足している、ということが言えます。

生徒のみなさんの回答の傾向を、これからの学校生活に活かせるよう、(1)学校生活全体、(2)学習、(3)生活や行動、に分けて、詳しくみていきたいと思えます。

(1) 学校生活全体について

8項目のうち6項目で、95%以上の肯定的評価が得られました。特に「学校には相談できる友だちがいる」という質問に関しては、95.1%が肯定的に回答しました。1年生では93.8%、2年生では98.4%、3年生では93.4%が友達と良好な関係を築いていることが分かります。この結果を踏まえ、今後も友達との交流を深める活動を積極的に取り入れていきます。また、「学校に来るのが楽しい」という質問についても95.1%が肯定的な回答をしました。ただし、4.9%の生徒は肯定的でなかったため、これらの生徒にも寄り添い、より学校が楽しい場所になるよう改善していきます。

(2) 学習について

8項目のうち6項目で90%を超える肯定的評価が得られました。特に「授業では、先生の話や友達の発表を聴くことができる」という項目では99.5%の生徒が肯定的に回答しており、落ち着いた学習環境が整っていることが分かります。また、「授業では、質問したり意見を述べようと努力している」という項目では90.4%の生徒が肯定的に回答しており、積極的に学びに参加していることがわかりました。今後も「小グループでの協働的な学び」を大切に、生徒同士の意見交換や質問を活発に行えるようにしていきます。

一方、「宿題以外に、予習や復習をしている」という項目では、肯定的に回答した生徒が72.9%にとどまり、家庭での学習が課題であることがわかりました。今後は、自律的な学習を促進するために、フォーサイト手帳やオンライン教材の活用を進めます。

(3) 生活や行動について

6項目のうち5項目で90%以上の肯定的評価があり、生徒が落ち着いた学校生活を送っている様子がうかがえます。特に「生徒会や学級の活動は互いに協力して行われている」という項目では98.4%が肯定的に回答しました。清掃活動についても、89.7%が「力を込めて4回がけ」を意識して取り組んでいると答えており、学校の伝統である清掃活動が根付いていることがわかります。

「進んであいさつを心がけている」という項目では94.8%が肯定的に回答した一方、目標である95%にはわずかに届きませんでした。今後は、挨拶が気持ちよい人間関係を築くための大切な手段であることを再度伝え、挨拶が活発に行われる学校作りを目指します。

学校評価生徒アンケート結果（%表示）		R6年 11月			
		令和6年(2学期)		令和6年(1学期)	
項目	評価指標	A+B	C+D	A+B	C+D
1 学校生活全体について		生活全体			
①学校に来るのが楽しい。	90	95.1	4.9	89.5	10.5
②学校には相談できる友だちがいる。	90	95.1	4.9	92.9	7.1
③学校には、一人ひとりが大切にされている雰囲気がある。		94.3	5.7	93.4	6.6
④学校では、命の大切さや仲間の大切さについて教えてくれる。		98.2	1.8	97.4	2.6
⑤学校では、地震や火事、不審者への対応の仕方をきちんと教えてくれる。		99.0	1.0	98.7	1.3
⑥学校では、自分の生き方や将来の進路について考えたり情報を得たりする機会がある。		96.9	3.1	92.9	7.1
⑦学校の施設は整備されていて、気持ちよく使える。		96.1	3.9	93.9	6.1
⑧今年度の3学年の二人担任制や1, 2学年のローテ担任制はよいと思う。	90	94.6	5.4	91.0	9.0
2 学習について		学習			
⑨授業では、先生の話や友だちの発表を聴くことができる。		99.5	0.5	99.0	1.0
⑩授業では、質問したり意見を述べようと努力している。	90	90.4	9.6	91.3	8.7
⑪授業では、大切と思われることはメモをとっている。		91.5	8.5	90.3	9.7
⑫教科の課題や提出ノートはきちんと出している。		78.0	22.0	80.1	19.9
⑬宿題以外に、予習や復習など自分で考えた学習を家でしている。	75	72.9	27.1	64.3	35.7
⑭先生は、一人ひとりが学習内容を身に付けられるよう工夫して学習を進めてくれる。		94.1	5.9	96.4	3.6
⑮授業の進む速さはちょうどよい。		93.8	6.2	93.9	6.1
⑯授業の内容がわかる。	90	92.8	7.2	94.1	5.9
3 生活や行動について		生活や行動			
⑰「進んであいさつ」することを心がけている。	95	94.8	5.2	94.4	5.6
⑱「力を込めて4回がけ」を意識して清掃に取り組んでいる。	80	89.7	10.3	89.5	10.5
⑲身支度を整え、無言清掃ができています。		94.8	5.2	95.2	4.8
⑳生徒会や学級の活動などは、互いに協力して行われている。	95	98.4	1.6	98.2	1.8
㉑多くの仲間は、集団生活のマナーやルールを守って生活している。		95.6	4.4	94.6	5.4
㉒キャンプや修学旅行、文化祭などの行事は楽しみである。		98.2	1.8	95.2	4.8
学校生活全体について		96.2	3.8	93.7	6.3
学習について		89.1	10.9	88.7	11.3
生活や活動について		95.3	4.7	94.5	5.5
項目全体		93.5	6.5	92.3	7.7

全国学力・学習状況調査の結果の分析と考察について

4月18日に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校3学年生徒の傾向と、それを受けての改善の方向をお知らせします。この調査でわかるのは学力の一部ではありますが、調査結果の分析に基づいた本校生徒の学力の傾向をつかみ、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して、改善に役立てたいと考えております。

全体としては、国語・数学ともに、平均正答率が、全国平均とほぼ同じという結果となっています。墨坂中学校のグランドデザインでお示した【評価指標】「正答率全国比 - 3%以内」を達成することができました。以下、各教科における成果と課題、今後の対策から見える本校生徒の学習の傾向について掲載いたします。なお、生徒質問紙についての結果は、次回お知らせします。ご家庭でも、参考にさせていただけますと幸いです。

教科に関する調査結果の概要

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
国語	全国平均とほぼ同じ	<p>◆知識・技能については、全国とほぼ同じ正答率でした。特に「漢字を書く問題（みちたりた→満ち足りた）」や「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する問題」では全国を大きく上回りました。このことから、これまで大切に取組んできた授業導入時の漢字を中心としたドリル学習を今後も継続し、基礎・基本の定着に努めていきます。一方、「情報と情報との関係について理解しているかをみる問題」は全国平均を下回りました。授業の中で、情報に関連した学習を系統的に位置づけ、さらに知識・技能の定着に努めてまいります。</p> <p>◆思考・判断・表現については、全国平均をやや上回りました。領域別では、「話すこと・聞くこと」および「書くこと」では全国平均を上回りました。特に、「書くこと」では、「目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかをみる問題」で全国平均を大きく上回りました。また、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかをみる問題」では、記述問題であったにも関わらず、全国平均より無解答率が低く、正答率は上回りました。これは、昨年度より取組んでいる新聞のコラムの学習効果があったと考えます。週末ごとにコラムを読み、よい表現に触れたり、自分の考えを200字程度でまとめたりする家庭学習を継続したことで、書くことへの抵抗感が減少し、同時に、相手意識をもって効果的な表現で書く力も向上していると考えます。今後も、新聞のコラムに関する学習を継続したり、授業でも条件や意図を明確にして書く学習に取り組んだりして、「書くこと」の力を伸ばしていきます。一方、「読むこと」が全国平均をやや下回りました。特に、「短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える問題」では、無解答率が全国平均を上回りました。短歌や俳句などの散文の学習においては、単なる作品の読みとりにならないように注意し、長く日本人に愛されてきた短歌や俳句の魅力に触れたり、実際にそれらを創作したりするなど単元展開を工夫しながら、生徒にとって韻文がより身近なものに感じられるようにして力をつけていきます。</p>

調査内容	教科別 平均正答率	考察及び対策
数学	全国平均とほぼ同じ	<p>◆知識・技能については全国平均とほぼ同じ正答率でした。特に「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」問題では全国平均を大きく上回り、式変形を正しく行う基本的な技能が定着しています。</p> <p>◆思考・判断・表現については、全国平均を下回りました。「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題では全国平均を上回りましたが、「①事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」や、「②筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみること」に課題があります。</p> <p>◆課題①「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明</p>

		<p>すること」</p> <p>関数の単元における表と式とグラフのそれぞれを関連付けて説明する問題でした。日頃の授業の中で、表・式・グラフそれぞれの特徴をまとめるだけではなく、それらの関係性を理解できるような授業展開を工夫していきます。</p> <p>◆課題②「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみること」</p> <p>図形の単元における証明問題でしたが、無解答率が高く、解答している生徒の中でも、結論のみの記述にとどまる生徒が多くいました。授業の中では、まず例を示し、穴埋め式で解答の型を一定程度示し、条件を押さえつつ、解答にたどり着くような練習を行い、筋道を立てて考える練習問題に取り組む必要性があると考えます。日々の実践の中で検証していきます。</p> <p>◆全体を通して、知識・技能は全国と同程度でしたが、思考・判断・表現は下回りました。授業の中で、思考の深まりにつながるような問いをたて、他者との対話の中で多面的に考える視点を養い、振り返りを行うことで自分の思考を整理する機会をもつようにし、思考・判断・表現の力を伸ばしていくようにします。</p>
--	--	--

日常の様子



【体育】ナイスバッティング！寒くなってきましたが、大きな声を出し、元気に取り組む姿があります。



【生徒会選挙】パネルディスカッションにより、候補者の考えを訴えます。フロアからも積極的に質問ができました。



【委員会】3年生が中心になって進めてきた委員会が終わりと、生徒会のバトンは2年生へと引き継がれます。



【2年生薬物乱用防止教室】学校薬剤師の松下先生から、様々な薬物とその危険性についてお話いただきました。



【2年生国語の授業公開】「平家物語」の登場人物から1人を選び、選んだ理由について小グループで意見交換しました。



【1年生の廊下】家庭科で製作したクリスマスタペストリーが廊下に飾られています。これで雪が降ればぴったりですね。

(*学校だよりにあわせて、生徒の作文を紹介します)

第74回“社会を明るくする運動”第16回須高地区作文コンテストで、本校3年生の山岸明架里さんの作文が最優秀賞を受賞しました。本人と保護者の方の許可を得て、ここに掲載します。

「まず、私の町から」

あ、また増えてる。

私の通る通学路に、いつからか、ビールの空き缶が落ちているようになった。そしてそれは、日を重ねるごとに増えていく。いやだな。気持ち悪いな。朝からそれを見て気が落ち込む毎日。そこで私は自ら行動して、空き缶を拾うことにした。登校するついでに拾い、学校で行われているボランティアに出してしまおうと考えたのだ。お母さんにビニール手袋とポリ袋をもらって家を出た。

ひとつ、ふたつ、みっつ。何日も放置されていた空き缶は、異臭を放っていた。しかもよっつ目は背の高い草と草の間の奥に落ちていて、腕を伸ばしただけでは届きそうになかった。あーもう嫌だな、最悪。足を使ってなんとかかたろうとしたけど、草のせいでそのよっつ目の空き缶をとるのに苦戦していた。すると、その様子を見ていた、横断歩道の交通指導に来ていた女の人が声をかけてくれた。空き缶を拾おうとしているのが分からなかったらしく、心配そうに「どうしたの？」と聞かれた。「空き缶を拾っていて……。でもとれなくて……。」全部事情を話すと、よっつ目を拾うのを手伝ってくれた。その人がいなかったら拾うことができなかったので、すごく嬉しかった。気持ちも前向きになり、私は続けて五つ目を拾った。

私は小学生の頃からよくごみを拾って帰ってきていた。プリンの容器が落ちていた、とかお菓子の袋が落ちていたと言っては、拾ってきていた。私の家の近くには小さな川が流れているが、そこに空のコンビニ弁当の容器とわりばしが流されているのを見つけて、先まわりをして拾ったこともあった。私がこういった行動するようになったのは、小さい頃の出来事があるからだ。それは、お父さんとの思い出だ。

私は小さい頃から体を動かすのも外で遊ぶのも大好きだった。自転車に一人で乗れるようになった時は嬉しくて嬉しくてよく庭で乗り回していた。そのうちに、お父さんと一緒に少し遠くまで乗るようになった。高速道路の下を通る時、いつもそこにはたくさんの空き缶が捨てられていた。そこで飲んだ人が、人目につかない場所だからと言って、そのまま捨てているのだ。それをお父さんが当たり前のよう拾ってビニール袋に入れて持ち帰り、水道できれいに洗って乾かしてからリサ

イクルに出していた。小さい頃そんなお父さんの姿を見て、まるで町の正義のヒーローみたいでカッコいいと憧れていた。だからごみを拾ってくると、カッコいい正義のヒーローになった気分だった。

拾った空き缶はまだ汚かったけれど、先生が洗っておいてくれる、と引き取ってくれた。

私の通る通学路。今まであった空き缶は全てなくなり、きれいになった。朝からきれいな道を歩いて気持ちのよいスタートをきる。毎朝歩く道の環境が変わるだけで、こんなにも人の気持ちが左右されることを身を持って体験した。そして、空き缶が日を重ねるごとに増えていったことから、ゴミが落ちている環境だと不法投棄が増えていってしまう。だから不法投棄が繰り返されないためにも「きれいなまま」の環境を維持することが大切だと考えた。「通学路にゴミがひとつも落ちていない」という当たり前をとり戻せたこと、よっつ目を拾うのを手伝ってくれた女の人や最後に空き缶をきれいにしてくれた先生、人のあたたかさにもふれることができ、とても嬉しかった。

これからも、「不法投棄のされない町」いや、「国」で生活していきたい。そのために私は何回でもお父さんの姿から学んだ、“正義のヒーロー”になりたい。

“やった方がいいのは間違いないけど、一人でやるのは恥ずかしい”、“自分がやらなくても、誰かがやってくれるだろう・・・”、そんなふうに考えてしまうのは、誰にだってあるものです。

そんなときこそ、「まず、自分から」と考えるようにしたいと、山岸さんの作文を読んで感じました。

みなさんは、いかがでしょうか。